

平成29年度 滝川幼稚園 自己評価 滝川幼稚園

1・園の教育目標

<p>1. 滝川幼稚園は、仏教精神(素直・仲良く・おもしろい)に よる保育を実践し、一人ひとりが健康で、友達と明るく仲良く生活でき 感性豊かな子どもに 育つことを目標としています。</p> <p>2. 広々とした園庭で のびのびと遊び自然との関わりを大切にし 健康な身体と 豊かな感性をやしないます。</p> <p>3. 自由保育を中心とし、年齢にふさわしい個々の育ちを大切に それぞれが自立する力を 育て生きる尊さを知らせます。</p>

2・本年度に 定めた重点的に取り組む目標や計画

<ul style="list-style-type: none"> ・臨床保育を 考えながら感性を 育む保育を実践し 「ありがとう」「ごめんなさい」など素直にいえる気持ちを育む。 ・日々の保育の振り返りを しっかりと行い 専門性を深め きめ細やかな保育実践を 行う。 ・生活習慣を再確認・徹底する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園教育要領をふまえ 園の教育理念・教育方針に従い 保育計画をしている。	園の教育理念が 日々の保育の中に 反映されるよう計画を たて 実践できる様 努力して取り組んでいる。 年間保育指導計画を実践するにあたり、保育の深みの違いが出てくるので 底上げをしなければならない。
教育要領・教育課程、子どもの実態 などを もとに考えて作成している。	毎年指導計画に加筆・訂正を行い 子どもの実態に即した内容に するよう努めている。教育要領も改訂され強調されている10の姿を意識した 内容にするよう努めている。
子どもの実態を的確につかみ、 具体的な手立てを 講じる。	日々の反省会で 各学年・クラスごと子ども達の様子、保育の反省をし 全職員が 子ども達の共通理解をし 課題が生じればその場で 解決方法・保育方法を考え 実践できる様にしている。
子ども達が 遊びを通して 様々な 事柄を 体験し楽しめる広がりを持った 保育ができるようにしている。	・子どもたちが興味を持った遊びを 発展し 年齢にふさわしい体験を 出来る様に 努めているが、まだまだ 充分とは言えない。
規則正しい生活習慣の定着に 向けて の指導を行う。	・基本的な生活習慣は、日々の保育の中で 衣服の着脱・うがい手洗い 排泄は、もちろんのこと メリハリのある保育に 心がけ 話を聞くときは しっかりとできるよう けじめを持った生活に心がけている。 ・挨拶・感謝の言葉など 日々の生活の中で定着できるよう機会があるごとに伝えて いく。
自然の中で ダイナミックにあそぶ	・年々 ダイナミックさに欠けているように感じるので 外遊びを充分に行い 四肢を充分に動かすことができるようにしていきたい。
園内研修をする。	・リトミック研修は、定期的に行っている。 ・H29は、外部から講師を招きおこなった。
各研究会・研修会に積極的に参加し	・全国・全道レベルの研修に 参加し 勉強してきている。 学んだことを積極的に 取り入れていく姿勢に 個人差があるので 意識を向上させていけるとよい。
職員間で 学びあう。	・研修レポートは、提出しているが 共通の学びとなるような工夫が必要 である。
園だよりや 合同研修会を通して 幼稚園の情報を発信していく。	園の方針や取り組みは、園だよりや 参観日の講演会・HPや FMで 情報を 発信しているが 園便り・HP・FMの内容を より充実させていく 努力をする。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 日々の反省を通すことで臨床的な反省や積み重ねは、行っている。
- 園児たちも「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉の大切さは、毎週月曜の園長の話しや 担任からの話、絵本等を通して 浸透してきている。
- 専門性を深める点においては、やはり教師の経験年数によって考える点の違いから差が感じられるが、各学年に経験年数の多い教師を置くことや 全体で取り組むことによってカバーしているが、まだ十分ではない様に感じる。引き続き経験年数の多い教師が 若い保育者を引き上げていくようにしていかなければならない。
- 手洗い・うがいなどの健康に関しては、比較的しっかりできているようである。感染症での休園等もすることなく園児は、健康に過ごしていたように思える。

5. 今後取り組むべき課題

特別支援教育	インクルーシブを 考え 支援の必要な園児の理解を図るとともに 健全児との関わり合いや 支援の必要な園児が 自己充実感を味う 保育のあり方を考える。 関係機関との連携の在り方を検討し教師が 専門性を高める必要がある。
幼保小連携	•第二小学校、第三小学校との交流を行う事ができた。 児童との交流もでき良かったが、教師間の交流を深くできると良い。 •小学校教諭に子ども達の様子を見に来ていただく機会を設ける事が できたのもよかったと思う。
保育指導計画の立て方	•長期スパンでの計画を立て 見直しをもって早めに計画実践を 行うよう心掛けてきた。 •きめ細やかな実践を行うためにも早めの計画実践が不可欠である。
保育者の資質向上	•日々の反省を通し また 深く内省をすることにより 目的意識を共有し 保育を行っていく必要がある。 •深く考えを巡らせていく必要性がある。

6. 研究会・研修会の参加状況

- 新任研修(道教委主催)・教育研究大会(北海道私立幼稚園協会主催)
- ブロック大会(北海道私立幼稚園協会道北ブロック主催) ・大谷保育研修会(大谷保育協会主催)
- 全国幼児教育研修会(公社)全国幼児教育研究協会主催 ・保育心理士講習会

6. 学校関係者の評価

後援会としては、幼稚園の先生方と協力し、園児の幼児教育活動が円滑に進むように支援をしてきました。各種行事への計画、運営のお手伝いの中で、先生方が園児の事を考え、熱心に取り組んでいました。後援会の活動に理解していただきながら、様々な前向きな意見もあり、有意義な活動を行う事ができました。日頃の幼稚園の先生方の活動に敬意を表し、今後益々活動が発展していく事を心より願っています。

平成29年度 後援会会長 片桐青史

7. 財務状況

公認会計士監査より 適正に運営されていると考える。